

# 2012年地区協議会

国際ロータリー第2790地区

## 職業奉仕委員会

「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」



アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張  
2012年4月30日(月)

	氏名	分区	クラブ
委員長	海寶 勸一	3分区A	千葉西
	堀内 正一	4分区	木更津
委員	飯合 幸夫	10分区	柏西
	高梨昇一郎	13分区	野田
	松田 泰長	9分区	成田

## テーマ「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」

国際ロータリー第 2790 地区  
2012-13 職業奉仕委員会  
委員長 海寶 勘一

次年度の職業奉仕委員会は、得居ガバナーエレクトの考えである、職業倫理の率先垂範することが、真のロータリアンの姿であるとの思いを、真摯に受け止めて、双方向意見交流ができる活動計画を立てました。

各クラブの職業奉仕委員長さんと話し合い、語り合ってみたく、委員会一同が楽しみにしております。

クラブ委員長さんが、クラブ内でのリーダーの役目を果たして頂くための、お手伝いの情報交流を盛んにして、クラブ委員長さんと一緒になって励んでみたいものです。

得居ガバナーエレクトも、熟考されたテーマであります。職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう、の標語のもとで開催される各分区ガバナー補佐に主催して頂く、ロータリー情報研究会の運営をさせていただきます。

その価値を高めるためにも、クラブ職業奉仕委員長セミナーを開催致します。

ロータリー情報研究会開催の前の時期に、隣接する 2 分区毎の、合同開催を計画してみました。

分区内の各クラブ委員長の皆さんが、心を一つにさせて、職業奉仕の真髓を語り合い、より善き人として、より善き職業人として、より善きロータリアンとして、奉仕の理想を説き、理解を深めあえる場を構築したいと考えました。

クラブ委員長さんが率先して、委員会活動ができ、クラブメンバーの職業奉仕の実践が、盛んになり、なによりも、ロータリーに誇りをもって、奉仕の理想を、鼓吹し育成できるように頑張ってほしいと思います。

もっと、職業人としての尊い思いや、理念をもって、双方向意見交流を盛んにさせて、超私の奉仕を心にして、最もよく奉仕をするもの、最も多く報いられるロータリアンとして、より大きな存在価値を見出し、職業奉仕に専念できるように、素晴らしい効果がでることを期待しています。

今日の地区協議会の分科会においては、隣接 2 分区合同のクラブ職業奉仕委員長セミナーの主旨と、分区単位のロータリー情報研究会の開催案内をご理解を頂けることを念じております。

クラブ委員長さんに御理解を頂けて、双方向の意見交流が、きっと活発に談論風発がされることでしょう。

職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう のテーマに沿って、ご一緒になって、大いに話し合い語り合い、職業奉仕の推進を学び合ってください。

## 2012-13年度第2790地区職業奉仕委員会 活動日程・分區別資料

(開催日程)

敬称略

分 区	クラブ委員長セミナー	ロータリー情報研究会	分区分区RC数	2分区分区RC数	ガバナー補佐	ホストクラブ	会 長
第1分区分	市川商工会議所2階 8月28日 火 15時-17時	9月25日 火 市川商工会議所3階 14時-17時	6	12	大貫 明彦	市川東	伊藤 雄康
第2分区分		11月14日 水 フローラ西船 13時-16時	6		浜名 賢一	船橋南	田中 一邦
第3分区分A	五井グランドホテル 8月7日 火	9月28日 金 ニューオータニホテル 15時-18時 幕張	7	13	平山 勝己	千葉若潮	鈴木 章浩
第3分区分B	14時-16時	9月11日 火 五井グランドホテル 14時-17時	6		田仲 正道	市原中央	池田 兼雄
第4分区分	ロイヤルヒルズ木更津ビューホテル 8月22日 水	11月28日 水 ロイヤルヒルズ 15時-18時 木更津ビューホテル	8	14	秋山 和彦	富津シティー	山口 稔
第5分区分	14時-16時	11月20日 火 鴨川館 14時-17時	6		古市 一雄	鴨川	佐藤 多恵子
第6分区分	東金商工会議所 9月14日 金	10月12日 金 東金商工会議所 15時-18時	9	13	小林 信雄	東金	鈴木 康道
第7分区分	13時30-15時30	10月7日 日 匝瑳市公民館 13時30分-16時30分	4		栗田 壮一	八日市場	柏熊 均
第8分区分	成田ビューホテル 9月7日 金	10月14日 日 多古コミュニティー 14時-17時 プラザ文化ホール3階	4	10	兼松 はじめ	多古	鎌形 四郎
第9分区分	14時-16時	10月18日 木 ラディソンホテル 14時-17時 成田	6		宮川 欣一	富里	佐々木 敬悦
第10分区分	ウイッシュトンホテルユーカリ 7月17日 火	10月16日 火 廣池学園・麗澤大学 12時30分-15時30分	5	12	宮 寛	柏南	小高 潔
第11分区分	15時-17時	11月6日 火 ウイッシュトン 14時-17時 ホテル・ユーカリ	7		神谷 昭信	八千代中央	小池 康博
第12分区分	流山 茶豆蘭 8月9日 木	9月19日 水 松戸商工会議所 14時-17時	5	10	川上 伸夫	松戸西	渡辺 孝治
第13分区分	14時30-16時30	11月9日 金 クリアビューホテル 14時-17時 (野田)	5		松田 武	野田東	吉澤 太郎

※各ガバナー補佐のご協力で、各分区分からの要望が出揃い、開催日が決定しましたのでお知らせいたします。  
 ※開催詳細につきましては、別紙にて次年度各ガバナー補佐とホストクラブ会長の皆様にお伝え致します。

2012-13年度地区職業奉仕委員会作成  
 2012-6-25現在

## 「楽をする誘惑」

現代社会は、容赦ない競争社会・殺人的な市場原理主義一辺倒の経済構造で構築されてしまいました。

社会に於ける競争のスピードに合わせ走れない者は容赦なく取り残され、おまけに落伍者と烙印されてしまいます。

息絶え絶えに舌を垂らし、涎を流しながら先を走るものを追いかけて、走り続ける様は正に狂気の沙汰としか言いようがありません。

しかし、我々は不幸にしてその様な事態を文明の進歩と名付けてしまったのです。そんなに急いで我々は何処へ行こうとし、何から逃れようとしているのでしょうか。

殊によると、私達自身の良心から逃げよう、遠ざかろうとスピードを上げているのではありませんまいか。

アンデスのあるインディオの部落の女性達は、朝、20分もかけて山を下り水を汲みに行き、朝食を終えると今度は山を登り畑に向かい、夕方に帰ると再び夕餉の支度のため、また水を汲みに山を下りる。何の疑問も、抵抗も感じない毎日の繰り返しでありました。

それを見たある文化人類学者が、インディオの女たちに、『初めから村をすそ野の泉の側に建てた方がよいではないのか』と提言をしたら、女たちは口ごもりながら、『利口だとは思いますが、楽をする誘惑に負けるのではないかと怖いのです』と、こう答えました。

楽をすることが、何故誘惑なのでしょう。

掃除機、洗濯機、冷蔵庫、電車、自動車、飛行機…、現代社会は日常生活を楽しくし、より快適な生活を送れる様に日々進歩を続けております。これらは私たちの生活を楽にし、面倒な仕事を代わってくれ、私達を煩わしさから解放してくれます。しかし、面倒な仕事から解放されると言うことが、どんな意味をもつのでしょうか。

明治初期、英国の女流エッセイストが東北地方を馬子つきの馬で取材旅行した時、昼食のため立ち寄った旅籠にベルトを忘れた。彼女は、それをわざわざ取りに戻った馬子が謝礼を固辞したこと、また、当時では珍しい舶来のベルトがネコババされることもなく置き忘れた旅籠にあったということに、陸奥街道の住民の徳の高さ、日本人の律儀さに感服したと書いております。日本文化は『恥の文化』と云われてきました。かつての我々の先祖は馬子や旅籠の女中に至るまで『君子』の生き方をすることに美学を感じていたに違いありません。昨今報道される数々の偽装事件、公共事業の談合事件、公共機関の利益優先の不始末の数々。もはや『君子の美学』など見る影もないのは、悲しい限りであります。現在の大企業といえども、創業時はみな如何に信用を獲得するか真剣に取り組んでいた筈であります。すべからず『初心忘るべからず』を心に刻むべきであります。

ビチャイ・ラタクル元 RI 会長も国際ロータリーの歩む方向に疑念を感じ、国際協議会の席上で『来し方を顧み・行く末を見つめて』と題する講演をされました。

『全てのロータリアンが親睦と職業奉仕の重要性を認識して下さい。この2つの要石を蔑ろにすると間違いなく信望を失い、ロータリーは衰退してしまいます。』

職業奉仕は、われわれロータリアンの良心をテストする試験場です』とロータリーの基本中の基本「親睦と職業奉仕」即ち「奉仕の概念の発生源である親睦」と「職業倫理の意識改革による職業奉仕の実践」を強調されました。そして、2つの要石の鍵を見失うと、間違いなくロータリーは衰退してしまうであろうと警告されました。

4大奉仕の内、唯一職業奉仕は自分の職業に対して何かを奉仕するものではありません。会員個人個人が自分の職業の質を高めること、道徳心を高揚させること、これを自分の職業に反映させることが基本であります。この精神を自分ばかりでなく自分の職場は勿論、同業者を含む業界に、異業者にまで拡大させることが全ロータリアンの使命であります。勿論、クラブの職業奉仕委員会と言えども、個々の会員の職業の質を高めることや、道徳心を高揚させることなど不可能であります。

そもそもクラブの職業奉仕委員会の任務は、間接的ではありますが個々の会員に対して自己研鑽を啓蒙したり、勉強会を開催して会員の質を高めることにあります。

1905年ロータリー創立当時は勿論、地区も国際ロータリーもありませんでした。ましてや、ガバナー補佐、ガバナー、RI理事などと云う指導層の存在は皆無でありました。それなのに立派にロータリアン同志が親睦の実をあげ、互いに研鑽しあい、奉仕活動に精を出して居たではありませんか。そして職業倫理の誠を貫くことが、自分の職業の繁栄に繋がることを身を以て体験し、即ち「4つのテスト」を実践することが、事業の繁栄を実証したではありませんか。

日常の厳しい現実には身を置く職業人としてロータリアンに期待したいのは、思い遣りの心の熟成であり、品格の向上を目指すことであります。

内村鑑三は大正15(1926)年、65才の時「成功の秘訣は」との問いに対して、次の様に答えております。

『成功本位のアメリカ主義に習うべからず、誠実本位の日本主義に則るべし。雇い人は兄弟と  
思うべし、客人は家族として扱うべし。

誠実によりて得たる信用は最大の財産なりと知るべし。人もし全世界を得るとも、その靈魂を  
失わば何の益あらんや。人生の目的は金銭を得るにあらず、品格を完成するにあり』正に職業  
倫理の実践が人生の目的であり、品格を完成させる事こそ職業奉仕の神髄でありましょう。

全人類の幸福の為にとか、世界平和の実現の為と云う様な、天空に輝く星を物干し竿でかき回  
すよりも、己の足元の小石を如何に拾うか、拾えるかが、ロータリー存続を問う鍵であると信  
じて止みません。

## 「あるレジ打ち女性の話」

その女性は、何をしても続かない子でした。

田舎から東京の大学に来て、部活やサークルに入ったのは良いのですが、すぐにイヤになって次々と所属を変えていくような子だったのです。そんな彼女にも、やがて就職の時期が来ました。

最初はメーカー系の企業に就職します。勤め始めて3ヶ月もしないうちに上司と衝突し、やめてしまいました。次に選んだ就職先は、物流の会社です。しかし、予想の仕事とは違うという理由で、又、やめてしまいました。その次に入った会社は、医療事務の仕事でした。又、『やはりこの仕事じゃない』と言ってやめてしまいました。

そうしたことの繰り返しで、彼女の履歴書には、入社と退社の経歴がズラッと並ぶようになっていました。すると、そういう内容の履歴書では、正社員に雇ってくれる会社がなくなってしまいました。

だからといって生活のためには働かないわけにはいきません。

田舎の両親は早く帰って来いと言ってくれます。しかし、負け犬のようで帰りたくありません。結局、彼女は派遣社員に登録しました。ところが、その派遣も勤まりません。イヤなことがあればその仕事をやめてしまうのです。

彼女の履歴書には、やめた派遣先のリストが長々と追加されていました。

ある日のことです。新しい仕事先の紹介が届きました。それは、スーパーでレジを打つ仕事でした。ところが勤めて1週間もすると、彼女はレジ打ちに飽きてきました。

ある程度仕事に慣れてきて、『私はこんな簡単な作業のためにいるのではない』と考えたのです。その時、今までさんざん転々としてきながら我慢の続かない自分が、彼女自身も嫌いになっていました。

もっとがんばるか、それとも田舎に帰ろうか。とりあえず辞表だけ作って、決心をつけかねていました。するとそこへ、お母さんから電話がかかってきました。また田舎に帰ってくるようながされ、これで迷いが吹っ切れました。彼女はアパートを引き払ったらその足で辞表を出し、田舎に戻るつもりで部屋を片付け始めました。長い東京生活で、荷物の量はかなりのものです。あれこれ段ボールに詰めていると、机の引き出しの奥から手帳が出てきました。小さい頃に書き綴った自分の大切な日記でした。

無くなって探していたものでした。そして日記をパラパラとめくっているうち、『私はピアニストになりたい』と書かれているページを発見します。

そう、彼女の小学校時代の夢です。『そうだ。あの頃私は、ピアニストになりたいくて練習を頑張っていたっけ』と、彼女はあの時を思い出しました。彼女は心から夢を追い掛けていた自分を思い出し、日記を見つめたまま、本当に情けなくなりました。『あんなに希望に燃えていた自分が今はどうだろうか。なんて情けないんだろう。そして、また今の仕事から逃げようとしている…』

彼女は静かに日記を閉じ、泣きながらお母さんに電話したのです。

『お母さん、私、もう少しここでがんばるね』

彼女は用意していた辞表を破り、翌日もあの単調なレジ打ちの仕事をするために、スーパーへ出勤していきました。ところが『2、3日でもいいから』と頑張っていた彼女に、ふとある考えが浮かびます。『私は昔、ピアノの練習中に何度も何度も弾き間違えたけど、繰り返しているうち、どのキーがどこにあるのか指が覚えていた。そうなったら鍵盤を見ずに、楽譜を見るだけで弾けるようになった』彼女は昔を思い出し、心に決めたのです。

『そうだ、私は私流にレジ打ちを極めてみよう』と。

そして数日のうちに、ものすごいスピードでレジが打てるようになったのです。すると不思議なことに、それまでレジのボタンだけ見ていた彼女が、今まで見もしなかったところへ目が行くようになりました。最初に目に映ったのはお客さんの様子でした。

『ああ、あのお客さん、昨日も来ていたな』

『ちょうどこの時間になったら子ども連れで来るんだ』とか、いろいろなことが見えるようになったのです。

そんなある日、いつも安いものばかり買うおばあちゃんが、5,000円もする立派な鯛をレジへ持ってきたのです。彼女はビックリして、思わずおばあちゃんに話しかけました。

『今日は何かいいいことがあったんですか？』

おばあちゃんは彼女に、にっこりと顔を向けて言いました。

『孫がね、水泳の賞をとったんだよ。今日はそのお祝いなんだよ。いいだろう、この鯛』

『いいですね。おめでとうございませう』うれしくなった彼女の口から、自然な言葉が飛び出しました。お客さんとコミュニケーションをとることが楽しくなったのは、これがきっかけでした。いつしか彼女は、レジに来るお客さんの顔をすっかり覚えてしまい、名前まで一致するようになりました。『〇〇さん、今日はこのチョコレートですか。でも今日はあちらにもっと安いチョコレートがでてますよ』『今日はマグロよりカツオのほうがいいわよ』などと言ってあげるようになりました。お客さんも応えます。

『いいこと言ってくれたわ。今から替えてくるわ』

そう言ってコミュニケーションをとり始めたのです。彼女はだんだんその仕事が好きになってきました。

そんなある日のことです。『今日はすごく忙しい』と思いながら、彼女はいつものようにお客さんとの会話を楽しみつつレジを打っていました。すると店内放送が響きました。

『本日は大変に混みあいまして申し訳ございません。どうぞ空いているレジにおまわりください』ところがわずかな間をおいて、また放送が入ります。『本日は混みあいまして大変申し訳ありません。重ねて申し上げます、どうぞ空いているレジへお回りください』

そして三回目、同じ放送が聞こえてきた時に、はじめて彼女はおかしいと気づきました。

そして、ふと周りを見渡して驚きました。

どうしたことか5つのレジが全部空いているのに、お客さんは自分のレジにしか並んでいなかったのです。店長があわてて駆け寄ってきます。

そしてお客さんに『どうぞ空いているあちらのレジへお回りください』と言った時です。

お客さんは店長の手を振りほどいてこう言いました。

『放つといてちょうだい。私はここへ買い物に来てるんじゃない。あの人としゃべりに来てるんだ。だからこのレジじゃないとイヤなんだ』その瞬間、彼女はワッと泣き崩れました。

その姿を見て、別のお客さんが店長に言いました。『そうそう。私たちはこの人と話をするのが楽しみで来てるんだよ。今日の特売はほかのスーパーでもやってるよ。だけど私はこのお姉さんと話をするためにここへ来てるんだ。だからこのレジに並ばせておくれよ』

彼女はポロポロと泣き崩れたままレジを打つことが出来ませんでした。

はじめて、仕事というのはこれほど素晴らしいものなのだと気づいたのです。

そうです。すでに彼女は昔の自分ではなくなっていたのです。

その後、彼女はレジの主任になって、新人教育に携わったそうです。

彼女から教えられたスタッフは、仕事の素晴らしさを感じながら、今日もお客さんと会話していることでしょう。

その後、彼女の履歴書がどうなったかは、誰も知りません。

## 「業界と共に生きよ」

「しょうゆは、ぜんぶアミノ酸しょうゆにすべし」

終戦直後、GHQ経済科学局のしょうゆ担当官であったアップルトン女史は、しょうゆ業界にこう内示する。

当時彼女が、このように考えたのも、まことにむりからぬことであったかもしれない。

そのころ、天醸造しょうゆの醸造期間は一年から一年半、原料利用率（原料のタンパク分のうち、しょうゆに残る割合）は、60%であった。

ところが、塩酸分解による、いわゆるアミノ酸しょうゆは、醸造期間わずかに一週間、歩止まりも80%と格段に高い。

いまならともかく、しょうゆの味を知らぬ外人が、味覚を考えずに、経済性だけを追求すれば（わざわざ、アメリカからもってくる貴重な大豆、小麦をむだに使うことはなにごとか）と云う結論に達することであろう。

しょうゆ業界としては「国難来る」というほどの大事であった。

産業魂の、“正念場”はさらにつづく。

そのころ、キッコーマンの館野正淳が、画期的なしょうゆ醸造法を発明した。

「新式二号」とよばれるこの方法は、大豆をいつたん弱酸性で処理し、それにコウジを加え、約二ヶ月間熟成させるというものであった。これだと、品質も天然醸造しょうゆに近いばかりでなく、歩止まりも80%になる。

このしょうゆを、常務になっていた二代茂木啓三郎は、醸造会の最高権威・坂口謹一郎（現東大名誉教授）の鑑定をこうた、彼は

「しょうゆの革命だ」と激賞する。

昭和23年7月、熱気をはらんだ日本醤油協会の会議で、茂木が、新式二号しょうゆについて報告すると、当時の協会長・正田文右衛門が、

「ぜひその技術を業界に公開してほしい」と要望する。

“業界とともに生き、運命とともにせよ”との養父からの教えがひらめいた茂木は、思わず「お役に立てば結構です」と答え、業界に特許を無料で公開する。

こうして、アップルトン女史もとうとう折れて、アミノ酸と新式二号の双方に、原料を配給こととなり、しょうゆ業界は危機を脱することになる。

この「新式二号」の発明につづいて、館野は「NK式たんぱく原料処理法」（NKは、当時の社名・野田醤油株式会社の頭文字）というきわめて、重大な発明を行う。

従来の醸造しょうゆの原料利用率は60%から一挙に三割アップした結果、インフレの進行するなか、キッコーマンは二回にわたって値下げを断行する。

しかし、この時も当社は、業界にたいしこの特許を公開する。ときに、昭和30年10月。

後日アップルトン女史は、

「キッコーマンという会社は、不思議な会社だ。せっかくとった特許を、なぜ無料・無条件で公開するのだろうか」と問うた。

茂木啓三郎は胸をはって、こう答える。

「それは、わたくしどもの先祖からの伝統で、業界ぜんたいと運命をともにすることを考えるからだ。特許は、歴史に記録されればそれでいい」と。



## 「仕事に愛を込める」

この話は、岡山ノートルダム清心女子大学の学長をしておられた渡辺和子先生をR I L A(ライラ)のセミナーの講師としてお迎えしたときに聞いた話であります。

先生は 29 歳にしてカソリックの信仰の道に入られ、修道女としてアメリカのボストンに渡られたのでありますが、暑い夏のある日、食堂で約 130 人位の夕食のために、皿とナイフとフォークをテーブルにセットする仕事をしておられました。その時、先輩のシスターが渡辺先生に「シスター、貴女は、今、何を考えていますか。」とお尋ねになりました。

渡辺先生が「何も考えていません。」とお答えになりますと、その先輩シスターは厳しい顔になって、「貴女は、時間を無駄にしています。」というのです。渡辺先生はその意味を理解しかねて怪訝な顔をすると、その先輩がおっしゃいました。「お皿とナイフとフォークを並べるのであれば、やがてその席にお座りになる人のために、何故、心の中で「お幸せに」と祈りながら並べないのですか。何も考えないで、ただ漫然とお皿とフォークとナイフを並べるということは、時間を無駄にしています。」このように諭されたそうです。

渡辺先生は、「私は、今まで如何に効率的に仕事をするか、ということをお教えられてきましたが、時間に愛を込めるということをお、初めて教わりました。お皿は同じ速さで、同じ姿に並びます。しかし、目に見えない大切なものが込められるか、込められないかによって、世の中は大きくかわります。それは一つには、私が「お幸せに」と祈って置いたお皿で召し上がった人は、必ずお幸せになるという信仰であります。

ただ、それよりも私にとって、つまらない仕事はなくなったということ。お皿並べというつまらない仕事、雑用だと思っていた仕事は実はそうではない。雑用は、私が仕事を雑にした時に雑用になるということをお教えられました。だから救われたのは私です。つまらないと思って皿を置くことと、お幸せにと祈って皿を置くことと、外から見た限りには全く同じに見えます。かかった時間も変わらない。しかし、仕事の量は同じでも、時間の質が変わっている。このことはその人自身が変わったということです。」  
渡辺先生は、このように述懐しておられました。

渡辺先生の言葉の中でも、お皿を並べるという行為に、目に見えない大切なものが込められるか、込められないかによって、世の中は大きく変わっていく、という言葉が、大変大事なことでありまして、ロータリーの国家観とか、ロータリーの基本的な考え方と一致する考え方なのであります。行動に愛を込めると言うことは、換言すれば、職業を倫理的に営むべし、倫理的な商売を営むべしということでありませ





